

1 教育目標

「至誠」「協和」「責任」の校訓のもと、自主・自立の精神と豊かな人間性を持ち、地域社会に貢献するために必要な力を育成する。

(スクール・ミッション)「ユコウ」を使った商品開発や「檜原の棚田」の保全活動など地域の資産を生かして、野菜・果樹や草花の生産・栽培と環境保全に関する専門的な知識・技術を習得し、人とのつながりを大切にする心と、地域産業を支える力を育成します。

2 教育方針 (スクール・ポリシー)

【育成をめざす資質・能力に関する方針】〈このような力を育てます〉

- (1) 農業に関する専門的な知識や技能を身につけ活用できる力を育成します。
- (2) 農産物の生産・栽培をとおして地域社会に貢献する力を育成します。
- (3) 環境保全活動をとおして地域農業に貢献する力を育成します。
- (4) 6次産業化の取組をとおして地域産業を支える力を育成します。(応用生産科)
- (5) 草花を活用して、地域の活性化を担う力を育成します。(園芸福祉科)

【教育課程に関する方針】〈このような教育活動を行います〉

- (1) 基礎学力の定着を重視し、農業における基本的知識・技能を身につけます。
- (2) 農業科目の授業や実習をとおして命の大切さを学びます。
- (3) 「檜原の棚田」の保全活動に取り組みます。
- (4) 学校設定科目として「地域農業」及び「LED活用」を学習します。
- (5) 「ゆこう」を使った商品開発をします。(応用生産科)
- (6) 草花の栽培をとおして地域との交流を深める学習をします。(園芸福祉科)

【入学者の受入れに関する方針】〈このような生徒を待っています〉

- (1) 明確な目的意識を持ち、高校生活に取り組む生徒を募集します。
- (2) 農業科目の実習において、積極的に取り組む生徒を募集します。
- (3) 専門的な知識や技術の習得に根気強く取り組む生徒を募集します。
- (4) 地域連携や交流学习に積極的に参加する生徒を募集します。
- (5) 生徒会・部活動など、学校の活性化に意欲的に取り組む生徒を募集します。

3 本年度の重点目標

- ・学習習慣の確立を図り、基礎学力の定着と専門分野の知識・技術の確実な習得を図る。
- ・学校生活全般を通して、基本的な生活習慣の確立と集団生活における規律向上を図る。
- ・「いじめは許されない」との共通理解の下、人権の尊重、支え合う人間関係を築く能力を養う。
- ・SDGsの推進と、主権者教育・消費者教育の充実を図り、生徒の実践力を育成する。
- ・家庭や地域社会との連携・協働により、地域とともにある学校づくりを推進する。
- ・GIGA スクール構想推進と積極的な情報発信により、魅力ある教育活動を創造する。

		自 己 評 価			意見や課題
重点課題	評価指標	活動計画	達成度	評価	
学習習慣の確立を図り、基礎学力の定着と専門分野の知識・技術の確実な習得を図る。	① ICT 機器を活用した基礎学力の定着および向上 生徒の自己評価 80%以上	・授業見学会 年間3回実施 生徒の意識等に関わる調査 →結果に関する情報共有、状況改善	授業見学会3回実施、 生徒の自己評価84.8%	自己 B	授業見学会は予定通り実施できたが実施率については更なる努力が必要である
	② 授業時間数の確保 授業実施率（2学期末現在）の向上 （実施授業時数）／（単位数）	・学校行事の精選、授業の振替え等 →2学期末に授業の実実施時数を集計し実施率を算出	応21.7 園21.6 授業実施率は向上しなかった	B	
学校生活全般を通して、基本的な生活習慣の確立と集団生活における規律向上を図る。	③ 全校集会を実施し、基本的な生活習慣の確立、いじめを含む問題行動や事故の防止、頭髪服装指導の実施 年間8回以上	・学校全体、学年、HRで共通意識を持ち連携 →効率的で公平な指導をおこなう	毎月1回実施し生徒指導の充実につながった	自己 B	確実に実施できてきており郊外での生徒の行動についても好感が持てる
	④ 校内、校外における交通安全講習会の実施 年間1回以上	・交通安全に対する意識付け →県内の高校生の事故状況等を踏まえた内容	講習会を実施し交通安全意識の高揚に努めた	A	
「いじめは許されない」との共通理解の下、人権の尊重、支え合う人間関係を築く能力を養う。	⑤ 人権学習ホームルーム活動満足度 80%以上	・人権学習ホームルーム活動 年間45回実施 →全教職員による学習指導案提示	学習指導案が提示できたが視聴覚教材を活用したい	自己 B	人間関係は難しい反面指導のしがいがある。更なる人権教育の推進をお願いする
	⑥ いじめ等に関するアンケート実施 「いじめと思われることを経験」 「いじめと思われる行為をした」を0にする	・いじめや人権等に関するアンケート 年間2回以上実施 →実態把握に努め、適切な指導を行う	2回以上できたが人権学習HRに活かしたい	B	
SDGsの推進と、主権者教育・消費者教育の充実を図り、生徒の実践力を育成する。環境教育・キャリア教育を推進する。	⑦ 環境美化に関する意識の向上と実践 ゴミの分別・リサイクル活動 年間3回以上	・生徒会によるゴミの分別、清掃状況の点検・評価 →定期的なりサイクル活動	ペットボトル蓋を回収し業者に引き渡した	自己 B	資格取得者が目標を上回り進路決定率もほぼ100%と個々に対応した進路指導が充実している
	⑧ 資格取得者の総数 80人以上	・刈払機講習会(1年生)、ビジネス文書実務検定(全学年)、漢字検定(全学年)、農業技術検定3級(2年生)	各種検定合格者 合計89名	A	
	⑨ 卒業時における生徒の進路決定率 80%以上	・進路指導についてのHR活動・進路ガイダンス →学期に1回以上 3年生の進路指導の充実	学校全体で取り組み効果があった		
特別活動の活性化と充実を図りGIGAスクール構想推進と魅力ある教育活動を創造するとともに積極的な情報発信を行う。	⑩ 学校行事への主体的な参画と生徒会・部活動の充実と活性化 学校祭・収穫祭の充実 生徒の満足度 80%以上 あいさつ運動 月1回以上	・学校行事の精選と計画的な企画・運営 行事に関するアンケートの実施→情報共有 生徒会によるあいさつ運動の実施	毎月1回あいさつ運動を実施 文化祭生徒アンケート満足度72% 実習以外の全ての科目でタブレット等ICT機器が活用できた。HP更新は1月末で93回	自己 B	校外で気持ちのよい挨拶ができる生徒が多いアンケートの数値はどんなものかHPはもうひと頑張りである
	⑪ 様々な場面での1人1台タブレットの活用とホームページでの情報発信 全ての教科等でタブレットを活用 更新年間100回以上	・農業関係や各課・各科・部活動等でのタブレットの活用と情報の発信 →保護者や地域と連携を図るわかりやすい情報発信		B	
家庭や地域社会との連携・協働により、地域とともにある学校づくりを推進する。	⑫ 檜原の棚田の保全活動 年間3回以上	・上勝町檜原の棚田の保全活動等地域の団体等と連携した活動の充実	・田植え、草刈、収穫3回実施	自己 B	ほとんど数値的にすべて上回っておりこれらの素晴らし活動を続けて欲しい
	⑬ 販売実習 年間5回以上	・野菜・果樹・草花・加工品等の生産と販売	・販売実習8回実施	A	
	⑭ 地元産直市「よってネ市」での販売 野菜・果樹・草花等の農産物販売 年間35品目以上	・産直市では年間を通して継続的に販売	・36品目販売		
	⑮ 6次産業化の取組をとおして地域産業を支える力を育成する 企業や地元NPOとの連携活動 年間10回以上 ユコウを使った商品開発 年間1つ以上	・6次産業化実践教育ステップアップ事業 企業と連携しユコウを使った商品開発をする ジャムやマーマレードの品質改良及び販売 地元NPOと連携し野菜や果樹の栽培及び加工・販売	・連携活動年間8回(リモート含む) ・「恋柚香」の開発と販売活動3回	自己 A A	
園芸福祉科	⑯ 草花を活用して地域の活性化を担う力を育成する 交流学習の実施 年間6回以上 地元NPO等との連携交流活動 年間3回以上 ジンリョウユウリの保全活動 年間3回以上	・草花の栽培をとおして地域との交流を深める学習をする 勝浦町内の施設等の花壇整備や小学校、保育園等との交流学習及び各種イベントへの参加・協力 バイオテクノロジーによる希少植物ジンリョウユウリ等の組織培養及び定植による環境保全活動	・交流学習12回 ・NPO法人10回 ・ジンリョウユウリ保全活動3回実施	自己 A A	交流学習や連携交流も全て上回り環境の保全活動にもしっかり取り組んでいる